

そにのわCSA について



概要

- そにのわCSAは、地域農業の振興や曽爾村と近畿大学のコミュニティ形成、学生教育の進展等を目的として、**奈良県曽爾村、曽爾村農林業公社、近畿大学農学部が連携・協働して行うCSA（地域支援型農業）**です。
- 曽爾村と近畿大学は、**2019年8月**に包括連携協定を締結し、共同で地域活性化に向けた取り組みを進めています（曽爾村での実習の実施、特産品の共同開発、マルシェの共同実施等）。これらの連携活動の一環として、近畿大学農学部農業経営経済学研究室からの提案をもとに関係者で検討を進め、**そにのわCSAの取り組みを2023年後期から開始**しています。
- そにのわCSAでは、**農学部の学生・教職員の有志が会員となり、前払い方式で曽爾村産農産物の共同購入（半期毎に計5回程度）を実施**しています（大サイズ（1回あたり2,000円・8～10品目程度）、小サイズ（1回あたり1,200円・4～6品目程度）の2種類）。
- そにのわCSAでは、曽爾村産農産物の共同購入に加え、**曽爾村訪問ツアー、農学部でのマルシェ・写真展・勉強会、CSA関連の調査研究等も実施**しています。



◆CSAとは、Community Supported Agricultureの略称で、一般的に「地域支援型農業」と訳されます。**CSAは前払いによる農産物の契約を通じて、農業者と消費者が相互に支え合う仕組み**のことで、地域農業の振興やコミュニティ形成等の効果をもたらす新たな農業モデルとして注目されています。

◆CSAは農業者と消費者が農業や食についてのリスクを共有し、信頼に基づく対等な関係を築くことによって成立しています。また、農作業等を通じて農業者と消費者が交流したり、消費者が出荷作業等の農場運営に関わったりする場合があります。

◆大学単位でCSAを行うのは日本国内では先駆的な取り組みです。大学（特に農学部）でCSAに取り組むことで、地域農業の振興や学生教育の進展等の様々な効果が期待されます。

大学単位で行うCSAのイメージ



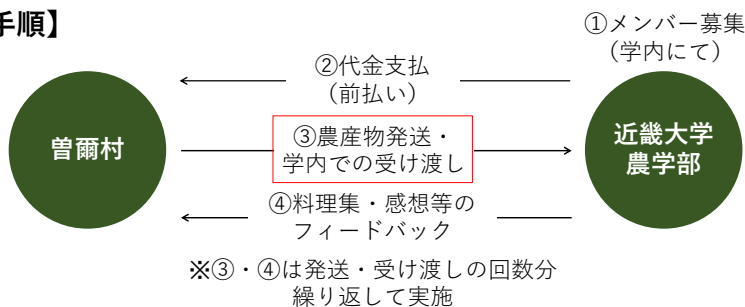
※地方自治体やNPO等が仲介・支援する場合も

生産した農産物を定期的に届ける

農産物のやりとりに加え、交流活動等も行うことで、地域農業の振興や大学を含めたコミュニティの形成、学生教育の進展等が期待される

曽爾村産農産物の共同購入

【手順】

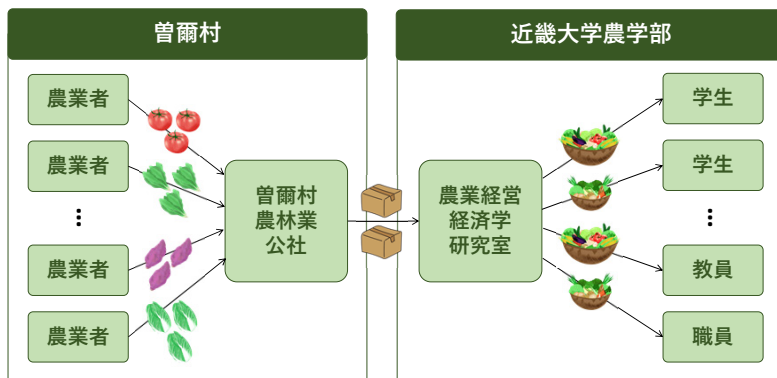


【農産物の選定方針】

- ・ 曽爾村の旬を感じることができる農産物
- ・ 曽爾村の特産品となっている農産物
- ・ 有機栽培や農薬不使用栽培等のこだわりの栽培方法で栽培された農産物
- ・ 大和の伝統野菜
- ・ 珍しい農産物
- ・ 規格外の農産物

上記のような農産物等を対象に、農産物の生育状況や農産物の日持ちの程度等にも配慮しながら、曽爾村農林業公社にて農産物を選定

「農産物発送・学内での受け渡し」の具体的な流れ



【農産物の例】

- ・ 有機春菊
- ・ 有機小松菜
- ・ ミックスリーフ
- ・ 人参
- ・ ハクサイ
- ・ サツマイモ
- ・ 菊芋
- ・ ピーマン
- ・ 椎茸
- ・ なめこ
- ・ 銀杏
- ・ 金針菜
- ・ ハーブミックス
- ・ 柚子
- ・ 有機ほうれん草
- ・ 曽爾高原トマト
- ・ ジャガイモ
- ・ きゅうり
- ・ 白ネギ
- ・ 里芋
- ・ カボチャ
- ・ 茄子
- ・ ぶなしめじ
- ・ セロリ
- ・ 紫唐辛子
- ・ ユキノシタ
- ・ ヤーコン
- ・ キウイ 等